平成６年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1995.3

交野市教育委員会

例　言

1．本書は交野市教育委員会が、平成６年度国庫補助事業として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。

2．発掘調査は、交野市教育委員会が調査主体となって実施した。

3．調査の実施、本書の作成及び遺物整理にあたっては、大場一、柏野勝重、代永崇、木佐木和夫、笠原利恵子諸氏の協力を得た。

4．本書で使用したレベル高はすべて海抜絶対高で、方位は磁北方位である。また土色の色調は、「新版標準土色帳」(農林省農林水産技術会事務局発行）によった。

目　次

例　言

第１章　埋蔵文化財発掘調査の状況…… 1

第２章　発掘調査報告…… 1

　第１節　交野郡衙跡…… 1

　第２節　天田神社遺跡…… 4

　第３節　東倉治遺跡…… 5

　第４節　私部城跡…… 6

挿　図

　第１図　交野郡衙跡調査地位置図…… 1

　第２図　交野郡衙跡(1)掘削位置図…… 2

　第３図　交野郡衙跡(2)掘削位置図…… 2

　第４図　交野郡衙跡(3)掘削位置図…… 3

　第５図　交野郡衙跡(4)掘削位置図…… 3

　第６図　交野郡衙跡(5)掘削位置図…… 3

　第７図　交野郡衙跡(6)掘削位置図…… 4

　第８図　天田神社遺跡調査地位置図…… 4

　第９図　天田神社遺跡(1)掘削位置図…… 4

　第10図　天田神社遺跡(2)掘削位置図…… 5

　第11図　東倉治遺跡調査地位置図…… 5

　第12図　東倉治遺跡(1)掘削位置図…… 5

　第13図　東倉治遺跡(2)掘削位置図…… 5

　第14図　私部城跡調査地位置図…… 6

　第15図　私部城跡(1)掘削位置図…… 6

図　版

　1　交野郡衙跡(3)試掘トレンチ

　2　交野郡衙跡(6)第１トレンチ西側断面

　3　天田神社遺跡(1)試掘トレンチ東側断面

　4　東倉治遺跡(2)試掘トレンチ北側断面

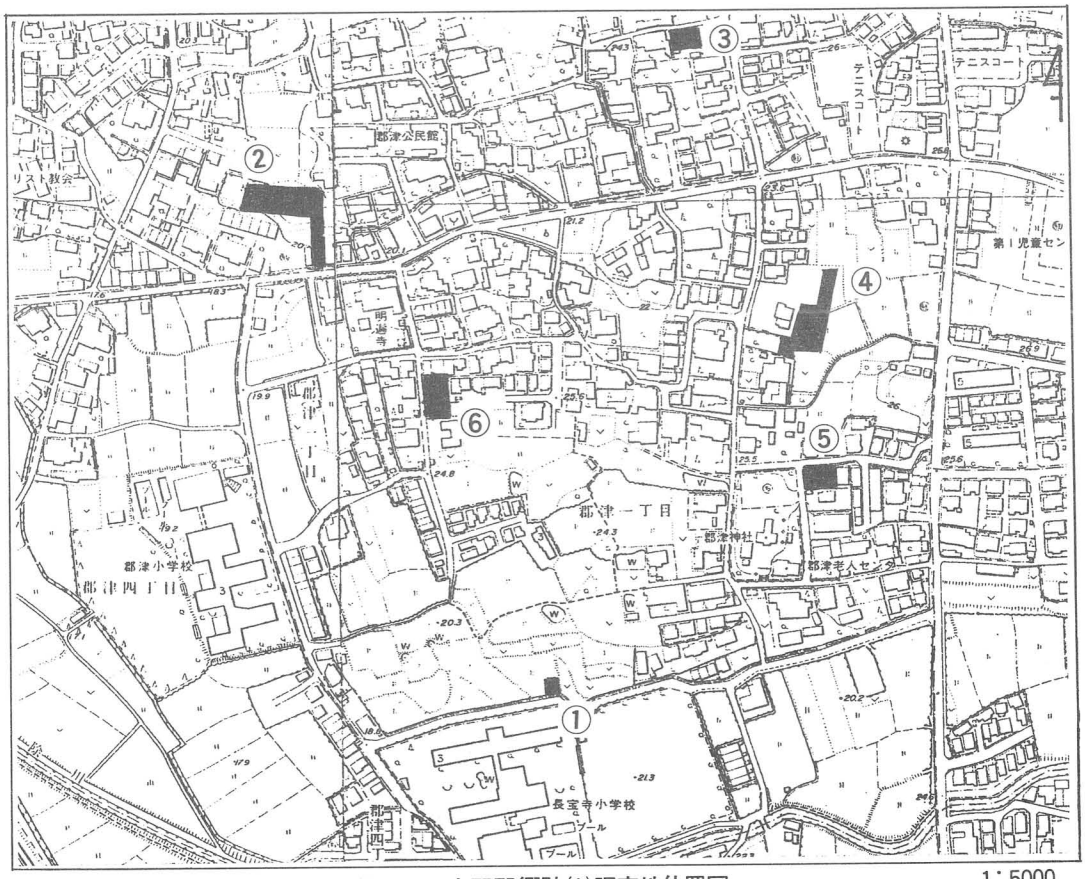
第１章　埋蔵文化財発掘調査の状況

交野市教育委員会では、平成６年８月９日から平成７年２月16日に至る間、12件の補助事業にかかる発掘調査を実施した。

今年度、調査の対象となった遺跡は、交野郡衙跡７ヶ所、天田神社遺跡２ヶ所、東倉治遺跡２ヶ所、私部城跡１ヶ所である。

第2章　発　掘　調　査　報　告

第１節　交野郡衙跡

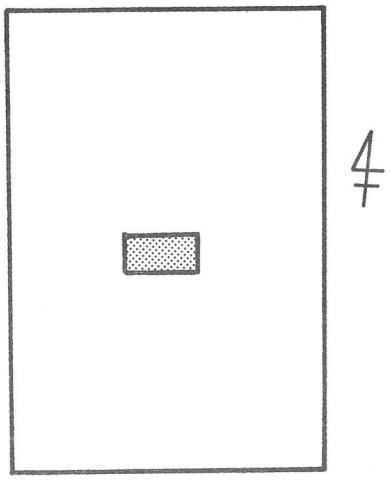


第１図　交野郡衙跡(1)調査地位置図　1：5000

(1)　郡津１丁目239－６

調査区の中央に２×１ｍのトレンチを設定し、地表下110cmまで掘り下げる。

調査の結果、地表下110cmまでの間には基本的に５層の堆積層を確認した。



第２図　交野郡衙跡(1)掘削位置図 1:200

第１層は、現代遺物の含まれた盛土層で、その下層が旧耕作層であった。地表下90cmで第４層のにぶい黄褐色砂質土層となり、その下層に地山とみられる黄橙色の、一部礫を含んだ砂層が堆積していた。遺物・遺構は確認できなかったが、面積を拡大して調査すれば、第４層下面に遺構の存在が予測される。

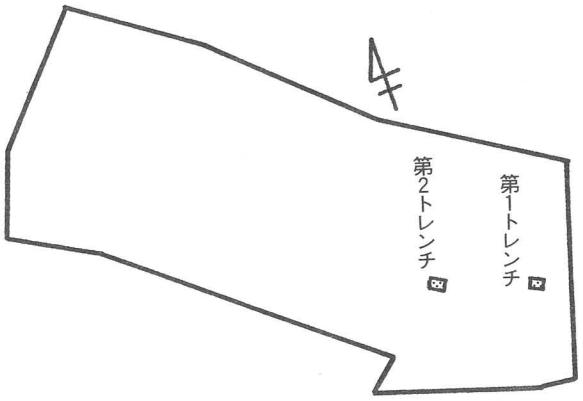
(2)　郡津３丁目1906－1

今回の調査区は、現在、東側に残る竹林の一部で、航空写真から推測する限りでは古墳とも思われる場所である。

調査は、調査区の東端に1.5×1ｍのトレンチを設定し、地表下130cmまで掘り下げる。調査の結果、トレンチの断面に４層の地層の堆積を確認できた。地表下20cmまでが表土層で、その下層に明黄褐色土の砂層が地表下80cmまで続く。出土遺物から近世以降の盛土と推測する。第３層は、同じく明黄褐色の砂層が地表下130cmまで続き、その下層に浅黄色の堅くしまった砂層が推積していた。

出土遺物としては、第１・２層から近世陶器の破片と瓦片が、そして第２・３層からは須恵器と土師器片が出土した。

遺構については、調査面積の関係から断定することはできないが、出土遺物から推測する限りではこの調査区が古墳域の可能性は極めて少ないようである。



第３図　交野郡衙跡(2)掘削位置図　1：800

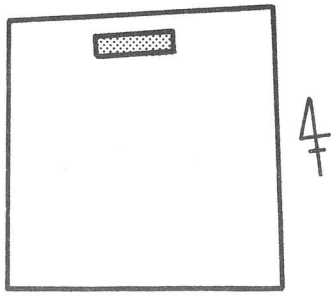
(3)　郡津２丁目1870－３

調査区の北側に４×１ｍのトレンチを設定し、全体的に地表下20cmまで掘り下げた後、２×１ｍの部分を地表下 90cmまで掘り下げる。

調査の結果、層序としては、盛土と旧耕作層である第１層の下層に、５層の堆積層を確認する。第３・４層のにぶい黄橙色の粘質砂層から土師器片を２、３点出土した。土器片

の出土状況から判断して、第２・３層は耕作地を造る際に、他の場所から運んできた土と推定される。第５・６層には、灰黄褐色と黄褐色の礫を多量に含んだ層が堆積していた。このように、地表下90㎝でも(普通50㎝以内で確認できる）この地域特有の黄色系の地山には到達しなかった。

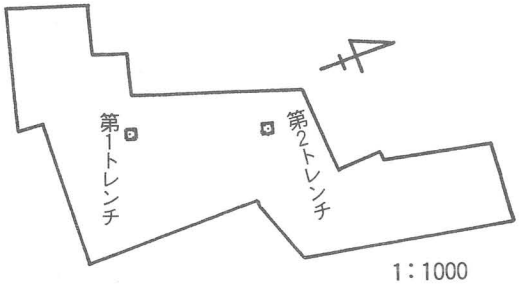
遺構を確認することはできなかったが、この調査区域の古代の地形が北側の道路を境として、現在よりも南方に傾斜しているのが確認できた。



1：400

第４図　交野郡衙跡(3)掘削位置図

(4)　郡津１丁目1976－４



1：1000

第５図　交野郡衙跡(4)掘削位置図

調査区の南北にそれぞれ１×１ｍのトレンチを設定する。両トレンチとも地表下80㎝まで掘り下げるが盛土に厚く覆われていて、旧地表面をも確認することができなかった。

(5)　郡津１丁目82

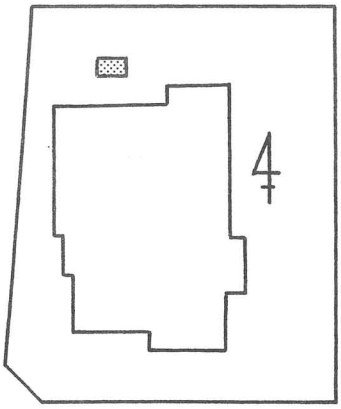
調査区の北側に1.5×1ｍのトレンチを設定し、全面的に地表下40㎝まで掘り下げた後、さらに0.75×1ｍの部分を20㎝掘り下げる。

調査の結果、地表下30㎝で、この地域特有の黄褐色の粘質土層となる。

遺物・遺構は確認できなかった。

(6)　郡津１丁目309

調査区の南側西端部と中央東端部に２×１ｍの第１トレンチと1.5×1ｍの第２トレンチを設定し、それぞれ地表下60㎝と80㎝まで掘り下げる。

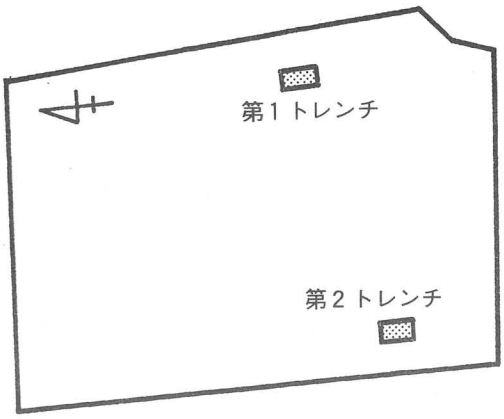


1：400

第６図　交野郡衙跡(5)掘削位置図

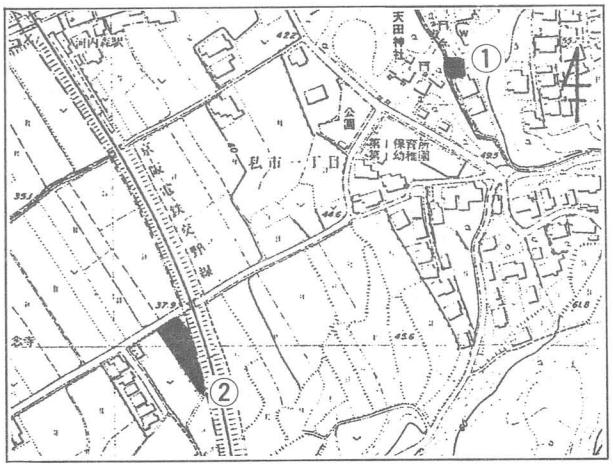
第１トレンチでは地表下40㎝までが盛土で、その下層は旧耕作層で、地表下60㎝で地山となる。また第２トレンチでは、地表下60㎝までが盛土で、前と同様その下層は旧耕作層で、地表下80㎝で地山層となる。遺物・遺構等は確認できず、また工事が盛土層以外に支

障が及ばないため調査を終了した。

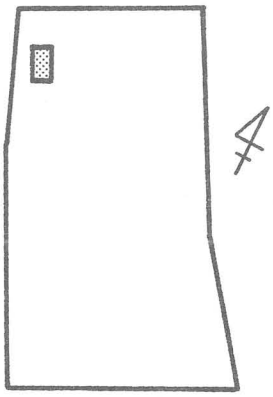


第7図　交野郡衙跡(6)掘削位置図　1：400

第2節　天田神社遺跡



第8図　天田神社遺跡調査地位置図　1：5000



1：400

第9図　天田神社遺跡(1)掘削位置図

(1)　森南2丁目472－2

調査区南西部分に2×1mのトレンチを設定し、地表下90cmまで掘り下げる。

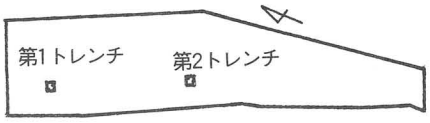
調査の結果、地表下20cmまでは、以前の建造物の残土で覆われ、その下層に旧表土層が存在し、さらに下層に黄褐色の粘質の砂質土層が堆積する。この砂質土層は、近くを流れる小久保川の影響によるものとみられる。遺物・遺構は確認できなかった。

(2)　私市4丁目125

調査区西側部分に1×1mのトレンチを2ヶ所設定し、それぞれ地表下60cmと30cmまで掘り下げる。

調査の結果、第1トレンチでは、地表下30cmまで耕作土層が堆積し、その下層に黄褐色の粘質土層が地表下60cmまで堆積していた。

遺構は確認できなかったが、遺物としては、木炭の小片が出土した。



1：1000

第10図　天田神社遺跡(2)掘削位置図

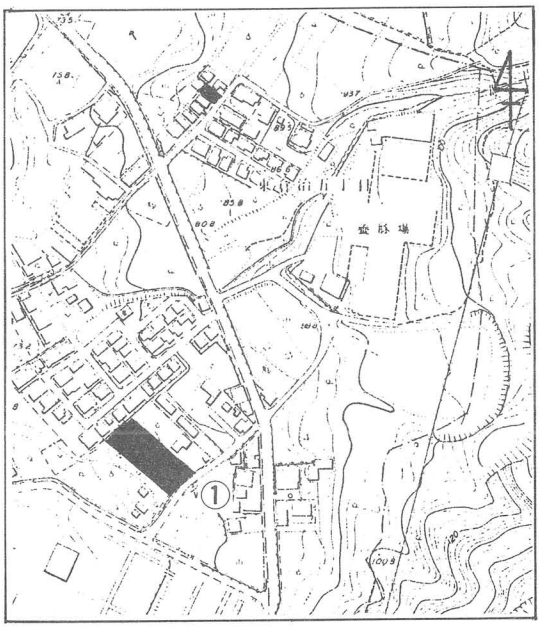
第３節　東倉治遺跡

(1)　東倉治３丁目2105-1.-2.2106.2111.2112

調査区の南側隅に第１トレンチを、そして中央よりに第２トレンチを設定する。トレンチの規模はそれぞれ２×１ｍで、地表下100㎝まで掘り下げる。

調査の結果、この調査区も、この区域の他の調査区と同様に花崗岩質の礫の比較的多い層と、多量に含む層とが交互に分かれて堆積していた。

遺物・遺構は確認できなかった。



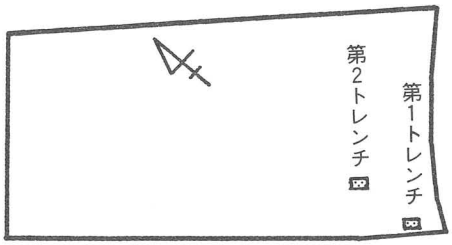
第11図　東倉治遺跡発掘調査地位置図　1：5000

(2)　東倉治５丁目2219

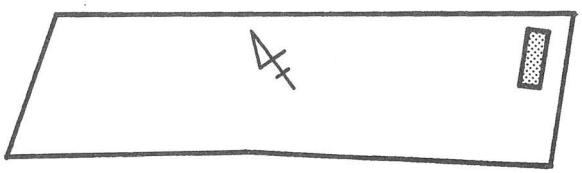
調査区南東部分に東西に３×１ｍのトレンチを設定し、地表下100㎝まで掘り下げる。

調査の結果、砂層が何層にも分層して堆積するのみで遺物・遺構は確認できなかった。

この地域は、近くに位置する清水谷古墳（後期古墳）が土砂にて埋没しているように、古墳時代の層までには２ｍ以上の土砂が堆積していると推定される。

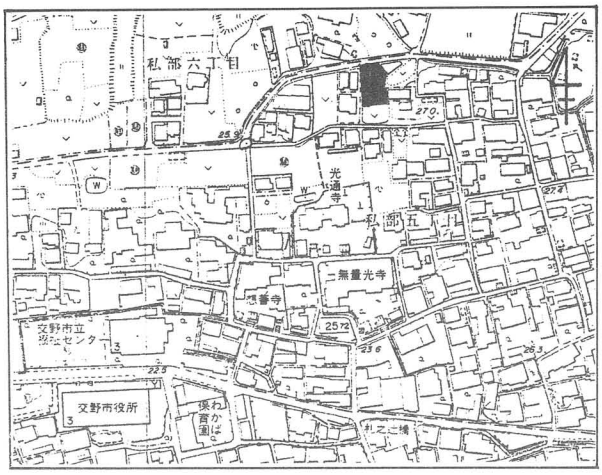


第12図　東倉治遺跡(1)掘削位置図　1：1000

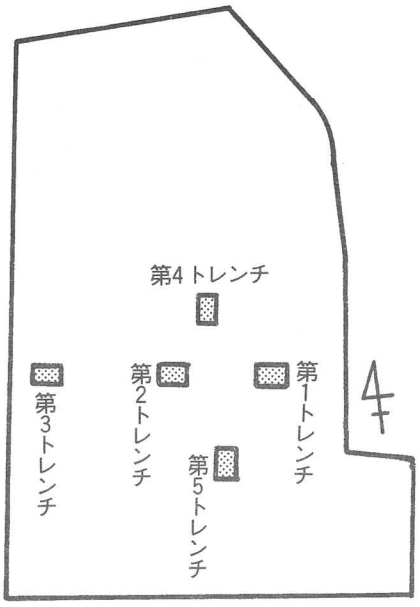


第13図　東倉治遺跡(2)掘削位置図　1：400

第４節　私部城跡



第14図　私部城跡調査地位置図　1：5000



第15図　私部城跡(1)掘削位置図　1：400

(1)　私部５丁目1760-1．1761-1．-2．1762-1

調査区中央の部分に東西に1.5×１ｍのトレンチを３ヵ所(東から順に第１・第２・第３）設定し、第１トレンチと第２トレンチの間に南北に同じく1.5×１ｍの第４・５トレンチを設定する。

この地区は私部城跡の第３郭部分の東側に位置し、付近からは、弥生時代中期の遺物が出土した場所である。

調査の結果、この区域は全てのトレンチで30～50cmの盛土層が堆積しており、その下層に黄燈色の砂質土層が堆積し、そして、下層に礫を多く含む明黄褐色土層が堆積していた。

遺物・遺構は確認できなかったが、調査区の地形並びに断面実側図から推測すると、この場所は以前に削平を受けたようであり、また第１トレンチでは河川の作用によるとみられる細かい砂粒の層が堆積し、現在の地形とは異なった地形の様子がみられ、地形が複雑に変化したことが認められた。

図　　版

図版１　交野郡衙跡(3)試掘トレンチ

図版２　交野郡衙跡(6)第１トレンチ西側断面

図版 3　天田神社遺跡 (1) 東側断面

図版 4　東倉治遺跡 (2) 試掘トレンチ北側断面

報告書抄録(1)

ふりがな	へいせい6ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書名	平成6年度交野市埋蔵文化発掘調査概要
副書名	交野市文化財調査概要
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	奥野　和夫
編集機関	交野市教育委員会
所在地	〒576 大阪府交野市私部1丁目1番1号　TEL(0720)-92-0121
発行年月日	西暦 1995年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
交野郡衙跡(かたのぐんがあと) (1)	交野市郡津(かたのしこうづ)	27230		34度 47分 30秒	135度 40分 41秒	1994.8.10 ～ 1994.8.16	100.66	宅地開発
(2)						1994.10.11 ～ 1994.10.12	201.59	
(3)						1994.8.25 ～ 1994.8.26	1754.57	
(4)						1994.9.13	1062.46	
(5)						1994.12.19	346.65	
(6)						1995.1.9 ～ 1995.1.10	475.73	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
交野郡衙跡	散布地 集落跡 官衙跡	古墳 ～ 中世		(2)近世陶磁器・瓦片 須恵器片・土師器片 (3)土師器片	

報告書抄録(2)

ふ り が な	へいせい６ねんどかたのしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書 名	平成６年度交野市埋蔵文化発掘調査概要
副 書 名	交野市文化財調査概要
巻 次	
シ リ ー ズ 名	
シ リ ー ズ 番 号	
編 著 者 名	奥野 和夫
編 集 機 関	交野市教育委員会
所 在 地	〒576 大阪府交野市私部１丁目１番１号 TEL(0720)-92-0121
発 行 年 月 日	西暦 1995年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
天田神社遺跡(1) (2)	交野市森南 交野市私市	27230		34度46分13秒	135度41分24秒	1994.8.19 1994.2.16	215.90 575.48	宅地開発
東倉治遺跡 (1) (2)	交野市東倉治	27230		34度47分39秒	135度42分21秒	1994.8.9 1994.12.5	1609.87 203.9	宅地開発
私部城跡	交野市私部	27230		34度47分12秒	135度40分57秒	1994.10.4 ～ 1995.1.10	529.92	宅地開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天田神社遺跡	集落跡	弥生 ～ 古墳		(2)木炭の小片	
東倉治遺跡	散布地	弥生 ～ 古墳			
私部城跡	城館跡	中世			

平成6年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発　行　日　1995年3月30日

編集・発行　交野市教育委員会
大阪府交野市私部1丁目1番1号

印　刷　所　加地企画印刷株式会社